

第7章 基本語の語源力

道 具を手に入れても、使わなければ宝の持ち腐れです。実際に使ってみましょう。

でも、どんな単語を辞書で調べればよいのでしょうか？

「そんなのはわかりきっているじゃないか。辞書は単語を調べる道具なんだから、意味を知らない単語を引けばいいにきまっているだろう」という声が聞こえてきそうです。

その通りなのですが、でも、ちょっと待ってください！

単語を増やす、さらに「使える単語」を増やし、「ホンモノの単語力」つけるために、私たちは大枚をはたいて辞書や電子辞書、CD-ROMを手に入れたのです。

使い方がこれまでと同じ、すなわち「知らない単語の意味を調べる」ではなんにもなりません。

もっと、「ホンモノの単語力」に近づく使い方はないのでしょうか。この章では、誰もが知っている基本語を手がかりに、英単語を増やしていくやり方を身につけていきたいと思います。

「単語の中に単語が隠れている」という考え方(☞第2章)は、語源を勉強するときの大切なアプローチでした。

私たちの手に入れた辞書で、まず引いてみたいのは、すでに意味を知っている基本語です。

基本語は使える範囲が広いですし、同語源の似た単語があったりして、さまざまに広がっていきます。

「いつもポケットに語源 (=英単語)」が私たちの合言葉です。

カタカナ語でも、英語っぽい言葉に出会ったら(そして、もちろんそのときに、ちょっとひまがあれば)、単語のことを考えてみましょう。

この単語は何語? — 辞書に手を伸ばしましょう。

「単語力」というと、つい「知っている単語」と「知らない単語」をきっぱりと区別してしまうのですが、「既知の単語」は「未知の単語」の入り口というのが「語源力」の考え方です。

(1) 「形状」の語源力

第3章で筋肉 (**muscle**) はネズミ (**mouse**) に似ているのが語源である、というお話しをしました。

英語を日本語に置き換えて「ああ、満足」という単語力を脱け出して、もう一歩先に行くときに、単語の表す「モノ」を頭に思い浮かべるかどうかは、とても大切なポイントになってきます。

辞書を引いて意味がわかったら、そのモノの形状を頭の中にイメージします。それが、「ホンモノの単語力」への第一歩です。

▶ ankleから思い浮かべるもの

ankle を辞書で引くと、「足首、足の関節」という意味が出てきますが、ここで終わりにせず、「どんなカタチ?」なのか、「足首」の形状を思い浮かべます。

「足首」はどんな形ですか？

この単語では、「形状」(カタチ)が「語源」につながります。